

Word で表記ゆれをチェックする方法

ある程度の長さの文書を作成する際、「コンピュータ」と「コンピューター」など無意識の内に使用する単語の表記が不統一になってしまうことがよくあります。このような現象を「表記ゆれ」と呼び、Word にはこの「表記ゆれ」や「スペルミス」などを自動的に検出してくれる機能があります。今回はこの表記ゆれのチェックを上手に利用する方法を紹介します。

1. 自動校正機能の ON、OFF

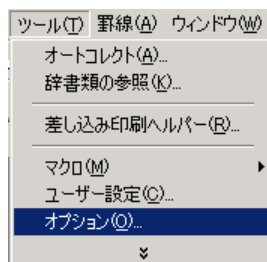
既定の設定では自動校正機能が ON になっています。ためしに以下のような文を入力してみてください。

「コンピュータ」と「コンピューター」、「computer」と「computer」、「日本語の入力を練習する」「日本語を入力を練習する」↓

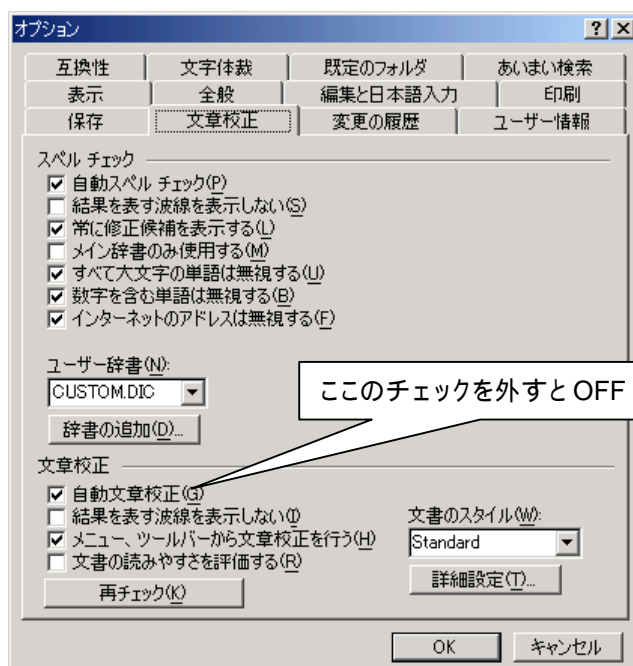
上記のように緑色の波線が表示される場合は、「表記ゆれ」か「文法上の誤り」の可能性を示しており、赤い波線が表示される場合は、「スペルミス」の可能性を示しています。

これは「文章の自動校正」機能が ON になっているためですので、波線が表示されるのが煩わしいと感じる場合は、以下の手順でこの機能を OFF にすると良いでしょう。

「ツール」メニューから「オプション」を選択します。



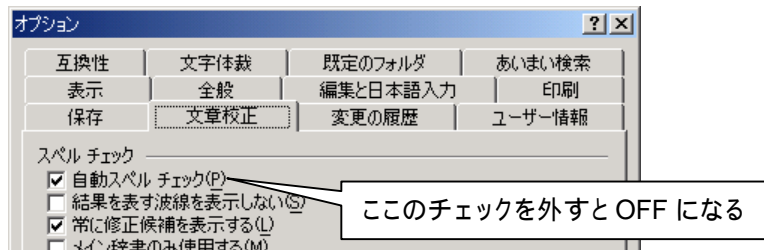
「オプション」ダイアログが表示されますので、「文章校正」タブをクリックして選択します。



ここで「文章校正」欄の「自動文章校正」のチェックを確認します。チェックが入っていればON、外れていればOFFですので、クリックして(必要に応じて)選択し、「OK」をクリックします。OFFにした場合は、先ほどの文例で表示されていた緑色の波線が表示されなくなります。

「コンピュータ」と「コンピューター」、「computer」と「computer」、「日本語の入力を練習する」「日本語を入力を練習する」

なお、赤い波線はスペルチェックの結果ですので、先の「オプション」ダイアログで「スペルチェック」欄の「自動スペルチェック」のチェックを外すと、同様に表示されなくなります。

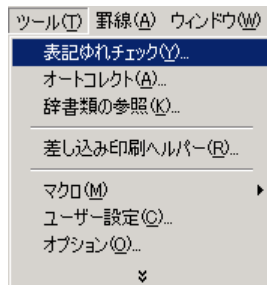


「コンピュータ」と「コンピューター」、「computer」と「computer」、「日本語の入力を練習する」「日本語を入力を練習する」

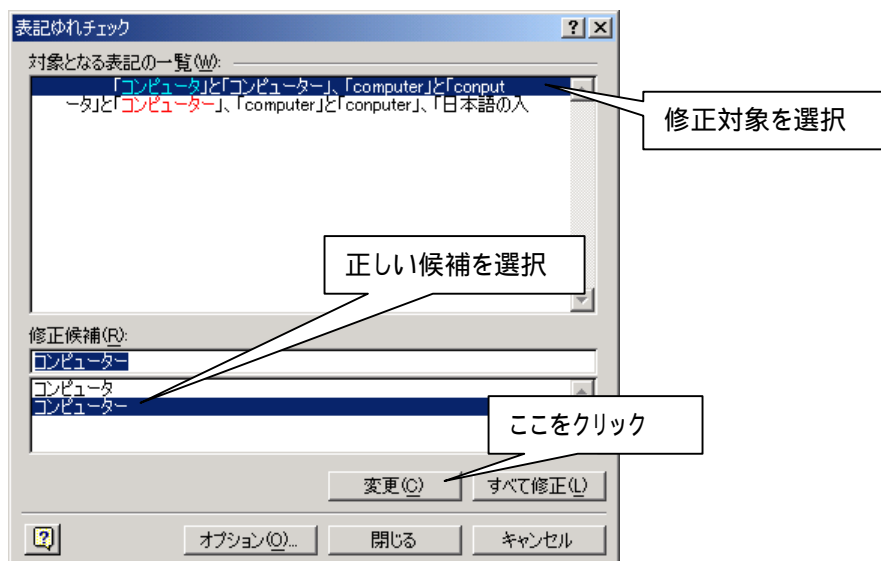
2. 「表記ゆれチェック」機能を使う

1で紹介したように入力直後に表示される波線で、入力ミスに気がつけばすぐに修正することもできますが、複数の担当者に分かれて報告書などを作成したりする場合など、どうしても後から校正をしたい場合も少なくありません。そこで「表記ゆれチェック」機能を使った校正の手順を紹介します。

「ツール」メニューから「表記ゆれチェック」を選択します。



以下のような「表記ゆれチェック」ダイアログが表示されますので、上段の「対象となる表記の一覧」欄から間違っている表記（赤く表示されている部分が対象となります）を含む行を選択し、下段の「修正候補」欄から正しい表記を選択して「変更」ボタンをクリックします。または、（上段はそのまま何もせず）下段の「修正候補」欄から正しい候補を選択して「すべて修正」をクリックします。この場合はすべての表現が選択した候補に一括で変更されます。



すべてのチェックと修正が終了したら「閉じる」ボタンをクリックして「表記ゆれチェック」ダイアログを閉じます。